

## 20周年記念号

# 海洋深層水産業

## Deep Seawater Industry

浅川良住

Yoshizumi ASAKAWA

室戸の海洋深層水は、科学技術庁の計画で、日本で最初に取水管が設置された。最初は魚や海藻の養殖の研究で始まった。弊社が世界で初めて海洋深層水の飲料水開発を行い、国の加工食品分野にも存在しなかったため、苦労が多かったが、約2年の歳月を経て、淡水化して1番美味しい水の値にして特許を取得し、ボトルドウォーターを開発した。

工場を建設し、地元雇用で技術者の育成を行った。世界初の海洋深層水ウォーター（商品名マリンゴールド）を開発し、製造販売したところ、最初はあまり売れなかったが、珍しさからメディアに取り上げられ、爆発的に売れた。高知県では、この新産業を当時の橋本高知県知事が全面的にバックアップしてくれ、県庁内に海洋深層水対策室を設置。ブランド化を図り、県内企業で100社以上が深層水を利用した商品を製造し、出荷額は全体で150億を超す花形産業へと成長した。また、海洋深層水企業クラブが立ち上がり、6年間会長を務めた。さらに、県は企業誘致に力をいれ、化粧品会社シュウウエムラ、赤穂化成が室戸へ進出してきた。室戸市にとってありがたいことであった。テレビや新聞雑誌の取材が殺到し、弊社の工場の視察に、海外も含め、全国から自治体や企業が訪れ、今では全国16箇所が取水管を引き、室戸と同じような商品を作り、世界ではハワイや韓国、台湾まで広がった。

海の飲み水という珍しさだけではいつか飽きられると思い、基礎研究、エビデンスの構築が必要と指摘され、高知大学医学部、名古屋市立大学との共同研究に進んで行った。これまで、弊社と高知大学医

学部との共同研究、高知県海洋深層水研究所、工業技術センター、他大学が深層水の研究を20数年行っており、研究が蓄積され、健康にいい水だとわかってきた。しかし、1つの商品、1つの産業がいつまでも続くか、誰にもわからない。時代の流れを見極め、海洋深層水に関わっている産官学が協力し合って努力する必要がある。

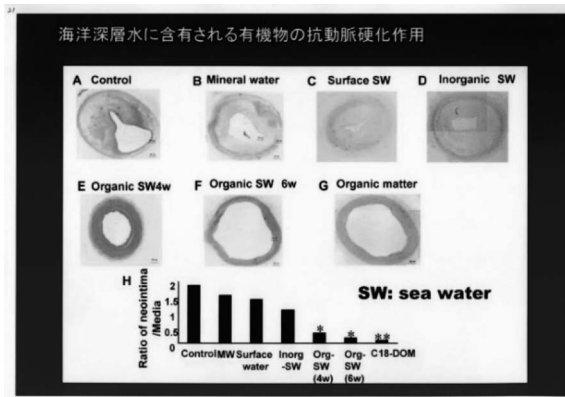
弊社の今後の展開方向としては、各地（海外も含む）での見本市での商談や、今までの流通ルートだけではなく、高知県が力を入れている防災用品（長期保存水など）の販売強化をしており、弊社も6年及び12年保存水を開発し、自治体や企業の関心も非常に高く売上も伸びてきた。さらに防災企業の一員としても認知されてきた。企業がしなければならぬ役割、自治体、大学や研究機関がやらなければならない役割は少しずつ異なると思う。しかし、この三者が連携すれば、何倍もの力を発揮できるのではないか？

この点、高橋会長を先頭に海洋深層水の全国組織ができたことは、食品だけでなく、海洋深層水が持つエネルギーや、漁業、気象の変動などへの影響などの素晴らしさを、他の政治経済の有力者に向け問題提起ができるし、してもらいたいと期待している。

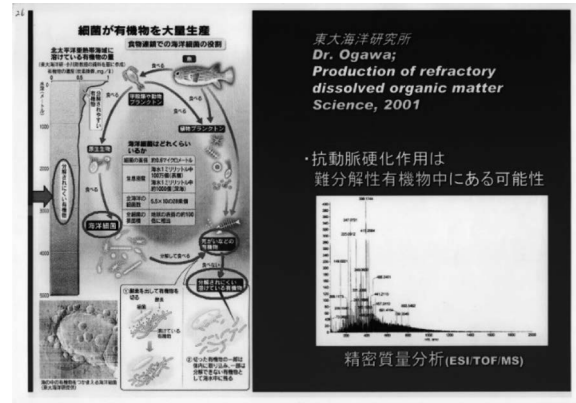
今後は、薬事法の問題もあるが、研究成果だけではなく、私の持論である「一般消費者に如何に効果効能を周知していくか」に、これから先の深層水産業の広がりが懸かっている。

（高知大学との共同研究）海洋深層水中の無機質

と有機質の分離に成功. 難分解性有機質に抗動脈硬化作用を発見.



ニューヨークで開催された「先進国間の脂質新陳代謝に効果のある薬剤」国際シンポジウムで難分解性有機質に抗動脈硬化作用があることを高知大医学部教授が発表した.



東大, 小川准教授がサイエンスに発表した. 海水に溶け込んだ有機質群は約海水に溶け込んだ有機質群は約7000億トン. 9割は微生物が分解できない難分の8割は未知で研究が続いている.